

ブラジル オレンジは落果が多く生産量に打撃

[FreshFruitPortal](#) 2025年9月15日

ブラジルのオレンジは落果率の上昇と生産量の減少により大きな打撃を受けると業界団体が警告

Fundecitrus(柑橘類栽培防衛基金)は、サンパウロ州及びミナスジェライス州南西部トリアングロ(三角)地域の柑橘類主産地(柑橘類ベルト)における2025/26年度産オレンジ生産量の初回改定見通しを発表した。

サンパウロ州の柑橘類生産者及び果汁業界を代表する同団体は、90ポンド(40.8kg)箱換算で3億674万箱の生産を見込んでいると報告した。これは、同団体が5月に発表した3億1,460万箱の見通しからの2.5%の減少に相当する。この新たな予測は、カンキツグリーニング病の深刻化及び収穫の遅れによって予想される落果率の上昇に起因している。

2025年のブラジル産オレンジの収穫は遅れ気味

Fundecitrusによると、8月中旬時点の収穫量は本年産全体の25%にとどまり、前年の同時期に50%が収穫済みであったことと比較して、著しく遅いペースである。

ハムリン、ウェスティン、ルビーの各品種の収穫率は68%、その他の早生品種は75%に達している一方、ペラの収穫率は17%である。晩生品種では、バレンシア及びフォリャムルチャの収穫率は1%、ナタールは2%となっている。

今季の収穫の遅れは、2回目の開花による果実が多いこと及び高品質な果汁を得るために最適な熟度での収穫を優先していることが要因かも知れない。これにより、特にカンキツグリーニング病に感染したり、水分不足または冬季の低温不足に遭遇したりした果樹で早期の落果率が上昇した。

落果率の上昇とカンキツグリーニング病の深刻化

当初5月時点で20%と見込まれていた落果率は、22%に見直された。この数値は、カンキツグリーニング病の影響が大きい柑橘類ベルトの南部・中部・南西部で高く、菌の拡散が緩やかな北部と北西部では低い傾向にある。

Fundecitrusのジュリアーノ・アイレス事務局長は、同団体の年次調査による柑橘類ベルトにおけるカンキツグリーニング病の平均的な深刻度が、2024年の19%から2025年には22.7%に上昇したと述べた。この結果、同地域の潜在的生産可能量は約35%減少した。

同氏は、「果樹の症状の深刻度が著しく上昇したことが、早期の落果率の上昇を直接的に引き起こしている。これが今回の初回改定見通しにおける収穫量減少の決定的要因である」と語った。

ブラジル産オレンジの数値データ

4月と6月の雨の多い天候により土壌水分量が良好に保たれたことで、ハムリン、ウェスティン、ルビー等の早生品種の1果重は1.43オンス(1箱当たり305玉)を維持した。他の早生品種(バレンシアアメリカーナ、セレタ、パインアップル、アルボラーダ)は、1果重が5.6オンス(259玉/箱)から5.3オンス(272玉/箱)に減少した。

一方、今年の収穫が遅れているペラ品種は春の降雨の恩恵を受け、1果重が5.4オンス(265玉/箱)から5.5オンス(261玉/箱)に増加する見込みである。

バレンシア及びフォリャムルチャは6.1オンス(235玉/箱)、ナタールは6オンス(242玉/箱)を維持すると見込まれる。全体として、オレンジの平均果重は変化していない。

詳細なデータは[原文参照](#)